



編集後記

標茶町の子どもたちと、標茶町内にある研究林の中を散策し、秋の自然環境や野生の動植物を観察しました。

令和5年度の第6回目の活動は、鶴居村9名、標茶町7名の合計16名が参加してくれました。今年の8月に開催した、2町村交流事業第2弾ということで、標茶町の秋の自然の中を散策しました。また、当日は、北海道標茶高等学校の高校生スタッフにご参加いただき、活動のサポートや子どもたちの見回りをしてもらいました。

秋の自然の様子は、この前まで緑が青々と茂っている様子から一変して、赤、黄、茶色など、色とりどりの葉っぱが地面に落ちていたり、松ぼっくりやどんぐりなどの木の實を観察することができました。また、樹木の枝の先には、春に咲くであろう新芽が冬を乗り越えようとしている姿も見られ、春の準備を着々と進めている様子でした。子どもたちは、秋の自然の中を散策するだけでなく、自分か感じたことや疑問に思ったことをわからないままにするのではなく、自分から質問したりして、自然環境に関して興味や関心を示してくれました。

短い時間の中ではありましたが、標茶町の子どもたちと友達になって、色々な話題を持ち寄って、話し込んでいる姿もちらほら見られました。これからも、たくさんの人との会話を楽しんで、人との関わりを大切に学校生活を過ごしてくださいね。

(編集者 吉田 綾稀)

活動の様子



・木の太さを図る様子





・ 研究林内で見られるもの観察



・ 振り返りの様子



